

25/3/21 名古屋城全体整備検討会議
名古屋市民オンブズマンによるメモ
(15時05分以降)

15:05

瀬口：余芳と灯籠の位置関係が写真で出せるか

名古屋城：写真2の7に見えるように灯籠を置いた
1.6メートル程度

瀬口：2の8, 2の9はやる必要がないのでは

岡田：位置の検討

2の7を解析 場所を特定

写真が不鮮明 位置は特定したが、解析した位置に
解析上の灯籠の高さを置いたのが2の8

実際に置くと、小さいのではないか

ある程度写真に合うように大きくした 古写真とおなじように
解析の誤差を実践

瀬口：そう説明して
違う風に理解する

麓：写真解析が信用できないのはそう

2の8, 2の9

古写真を比べると、火袋が大きくみえる

2の9でももっと離れて見える

傘が小さい

単純に高さの問題ではなく、2の16図面そのものがおかしいのでは

名古屋城：横幅は写真解析で決めた

瀬口：写真が斜めになっているように見える
火袋 影が見える
小さすぎるのかも
ほかには

丸山：灯籠は難しい

余芳 新しく作る

作る段階で検討する

灯籠の専門家がいる

写真から見るのは難しい

灯籠の位置 実際につけないと難しい

新作はその通り

古材をつかってやる 雪見灯籠

四つ足は間違いない

宝珠 絵図にあるようではない

経費的に古材 出来上がったものを修正して

重ねないとわからない

使えるもの、おかしいもの 出てくる

新材だけ 古材まぜて経費節約

庭園部会 これとこれを組み合わせて

三浦：二つを合体させる？新材だけ？

二つを合体させる案を前提

文化財ではない

文化財灯籠の場合、欠けている部分 新品を付加

2つのものを1つ ニコイチは絶対いけないという大原則

造形的美学を無視することに

新品で作ることを勧める

四本足 2-6

下がっているところと下がっていないところ

似て非なるもの 使ってはいけない

新調されることをすすめる

岡田：雪見灯籠

絵図 宝珠をのぞく 似通っている できれば使用したい

「ニコイチ」2-6 は使わない

宝珠と足 新調する方向で

三浦：欠けているところ補うのはよい

2-6 は絵に近い

2-6 にている

火袋だけ古い 当初材？

足を取り換える 文化財の修理としてはよろしくない

- ・ほぼ雰囲気似ているから使う
- ・新品か

瀬口：岡田「宝珠と足を新しく 火袋は使う」
私には火袋が違う
受けと火袋に隙間があるように
絵を参考に
岡田さんの案もだめ
三浦案は選択肢

岡田：あらためて議題にしたい

瀬口：7 ページ 標柱 薬研彫の根拠は？

名古屋城：絵図を根拠に

瀬口：絵図は根拠にならない

名古屋城：雰囲気が近いと思う

瀬口：斜めに切り込んで 文字が
どんな掘り方か？

名古屋城：そこまでの詳細は

瀬口：普通の彫方が薬研彫？

三浦：文字の一番下がV字
丸いのはみかん彫
いつから？明治以降はみかん彫
いつ頃

名古屋城：江戸末期

三浦：どちらでもいい
みかん彫 字が明確に
薬研彫 すこし曖昧に
丸山先生の美的感覚で

瀬口：東海道に文字が彫ってある
確認して

麓：文字はゴシック？書体は？

藤井：名古屋城蓬左文庫と徳川美術館 年代は
絵図 基本的によるべきか 判断して使って

名古屋城：年代はほとんど同じ
御城御庭絵図 計画図？
尾二の丸御庭之図 完成後？
御城御庭絵図 鮮明なのでそちらに
書体は行書体？古い形で

瀬口：石の工作物 たくさんある
あたればいい
想像で書かないで
灯籠の前に立ち止まる石がある
尾二の丸御庭の図は荒い感じ
再検討いただいて再び全体に報告を
以上で議事を終わる

15：31

愛知県岡田：活発な議論ありがとう
庭園 歴史資料が残っているとはいっても、
復元するのはいかに難しいか
本年度最後の会議 勉強になった
名古屋城価値の向上につながる

瀬口：進行を事務局に

岡田：ありがとう
本日予定は以上
ありがとう

15：32